

かいぎめいしょう 会議名称	へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい きろく 平成29年度 第4回杉並区地域自立支援協議会 記録
にち じ 日時	へいせい ねん がつ か か 平成30年2月20日（火） 13：30～16：00
ば しょ 場所	く やくしょにしとう かいだい かいぎしつ 区役所西棟6階第5・6会議室
<p>しゅつせきいん &lt;出席委員&gt;  たかやまゆみこいん (かいちょう) たなかたかしいん かねこいん かしわざしんじいん しまだゆうじろういん さいみょうひさ  高山由美子委員（会長）、田中崇委員、金子めぐみ委員、柏木伸二委員、島田祐次郎委員、西明久  えいいん かわぐちりえこいん たなかなおきいん すずまきまぢいん ばんどうともこいん つぐひとしいん てらにしひろあきいん  恵委員、川口理恵子委員、田中直樹委員、鈴木正道委員、阪東智子委員、継仁委員、寺西宏晃委員、  しまだゆうぞういん しもだかずのりいん しゅりみかさいん ほそがおいきわいん ながたなおこいん たなかすみこいん あいだ  島田有三委員、下田一紀委員、修理美加沙委員、細貝長武委員、永田直子委員、田中澄子委員、相田  りか  里香委員</p> <p>けつせきいん &lt;欠席委員&gt;  はるやまいん ふくかいちょう わたなべひでおいん  春山委員（副会長）、渡邊英夫委員</p> <p>ぼうちょう &lt;傍聴&gt;  めい  2名</p> <p>かんじ &lt;幹事&gt;  しゅつせき ぜんいんけつせき  出席なし（全員欠席）  けつせきかんじ ほけんふくしぶしょうがいしやくかちょう でほゆうじ しょうがいしやくせいかつしえんかちょう もるずみじんこ  欠席幹事：保健福祉部障害者施策課長：出保裕次、障害者生活支援課長：諸角純子  すぎなみふくしじむしょたかいどじむしよたんとうかちょう おかもとさちこ  杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：岡本幸子</p> <p>じむきょく &lt;事務局&gt;  しょうがいしやくせいかつしえんか めぐるきみこ いけだけいこ ささきなつえ ほしのけん たなべのぶひろ きろく  障害者施策課：目黒紀美子、池田恵子、佐々木夏枝、星野健、田邊信広（記録）  しょうがいしやくせいかつしえんか きしよしひさ  障害者生活支援課：岸義久</p>	
<p>【次第】</p> <p>1 かいかい 開会</p> <p>2 かいちょうあいさつ 会長挨拶</p> <p>3 ほうこく けんとう 報告・検討</p> <p>(1) シンポジウム実行委員より</p> <p>(2) さべつかいしょうしえんちいきかいぎ 差別解消支援地域会議より</p> <p>(3) H30年度以降の計画相談支援に向けての取組について</p> <p>(4) かんじかい 幹事会より</p> <p>(5) かくぶかいほうこく 各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けいかくぶかい 計画部会より</li> <li>・はたら 働きかたサポート部会より</li> <li>・ちいまいこうそくしんぶかい 地域移行促進部会より</li> <li>・そうだんしえんぶかい 相談支援部会</li> </ul> <p style="text-align: center;">~~~~~ 10分間休憩 ~~~~~</p> <p>(6) じりつしえんきょうぎかいこんご ろんでん 自立支援協議会今後の論点について</p>	

- ・地域生活支援拠点等の整備について
- ・グループホームへの情報収集について
- ・今後の論点、課題について

#### 4 閉会

#### 【配布資料】

資料1：幹事会より

資料2：シンポジウム実施報告

資料3：H30年度以降の計画相談支援に向けての取組について

資料4：区政モニターアンケート速報・・・当日席上配布

資料5：地域移行促進部会活動報告

資料6：計画部会報告・・・当日席上配布

資料7：相談支援部会活動報告

資料8：相談支援事業所アンケート結果

資料9：今後の協議会 論点整理について

資料10：地域生活支援拠点等の整備について

追加資料1：シンポジウムアンケート自由記述・・・当日席上配布

追加資料2：拠点等に必要と考えられる機能・・・当日席上配布

追加資料3：八王子市の地域生活支援拠点について メモ・・・当日席上配布

参考資料：障害者虐待防止に関する区の取組状況について・・・当日席上配布

#### 【内容】

##### 1 開会

##### 2 会長挨拶

資料も多く、盛りだくさんの議題があり、皆さまからご意見をいただきたくため、運営がスムーズにいくようにご協力願いたい。

##### 3 報告・検討

##### (1) シンポジウム実行委員会事務局より<資料1参照>

- ・1月31日実施内容の報告をアンケート結果を踏まえ事務局から説明。
- ・自由記述のアンケートをこれだけ多く記入してもらったので、次回のシンポジウムに活かしてもらいたい。(高山会長)

##### <感想>

- ・参加者が多く驚いた。障害者連合会の中でも、もっと問題を共有することが今後必要と感じた。初めて参加したが、高山先生の話が分かりやすかったという声があがっていた。分かりやすい言葉で話すことが大事だと改めて感じた。(田中委員)
- ・普段、就労分野の支援に入っているが、地域移行について今まで身近に話を聞くことがなかった。パネルディスカッションの話がきけて、非常にいいシンポジウムだった。(川口委員)

##### (2) 差別解消支援地域会議より<資料4参照>

- ・3月に3回目実施予定。区政モニターアンケートの速報版配布。自由記述を抜粋している。

3月の会議では分析したものをだし、検討していきたい。区民の意識がかなり高く、障害者について身近に感じている人が多い。

- ・区職員向け（窓口職員）研修を2月26日に実施予定。テーマとしては、精神障害者のかたへの理解。野崎クリニックの野崎先生と、前期委員であった小笠原さんに当事者として登壇していただく内容で研修企画している。当日参加者70～80名になりそう。後日、差別解消支援地域会議、次回の本会でも報告させてもらう。（事務局）

### ③計画相談支援に向けての取り組みについて<資料3参照>

- ・平成30年4月1日から報酬改定がある。計画相談に関することで、モニタリング頻度の変更。相談支援の質を確保するために、一人あたりの担当者件数が定められるなど改訂される。それに伴い、杉並区としてどのように対応していくか障害者施策課で検討し、1月18日に特定相談支援事業所に意見をもらい、修正したものを2月8日に再度説明を実施した。今回はその内容について本会で説明。（事務局）

#### <質疑>

- Q. モニタリング頻度変更について、国では31年度から、杉並区では30年度から前倒しでやるということか？（田中直樹委員）  
→可能などころから実施していく。
- Q. 質の向上のため、区がモニタリング内容について検討するとあるが、具体的にどのようにしていくつもりなのか。（高山会長）  
→具体的には、まだ決まっていない。相談支援事業所、協議会委員の方にもご意見いただきながら検討していきたい。
- Q. 杉並区では、明確な基幹相談支援センターがない中で、国は1か所10万人規模を想定している。区で設置するなら1箇所ではなく複数つくってもらいたい。（田中直樹委員）  
→現在、基幹相談支援センターの一部の役割として、地域ネットワーク推進係が担っていることになっているが、今後、区として明確化していく必要があると考えている。
- Q. 現在、障害者施策課と特定相談支援事業所とでモニタリング頻度の変更のことなど面談していると思うが、そこでの意見を集約して、協議会にもフィードバックしてもらいたい。また、相談支援部会で、相談支援体制について、特定相談向けアンケートをとっているが、今後は当事者側の意見も聞きながら、相談の質の向上に向けて、協議会で進めていきたい。（修理委員）  
→協議会にも集約したものを情報提供していく。
- Q. モニタリングとは具体的にどこまでのことを想定しているのか。ボリューム感がわからない。区として考えを示してもらいたい。  
→モニタリングで何を確認していく必要があるか、みんなで共有する必要があると考えている。

### ④幹事会より<資料1参照>

- ・協議会で出された報告・意見・課題を幹事会で話し合ったことを報告。
- ・医ケア児の通学送迎の課題について、本会でも取り上げ、今年度東京都に課題として挙げていた

ところ、来年度から東京都で18か所分6億円の予算が組まれた。今後、どのような児童が対象になるか検討し、来年度途中から送迎が可能になるとのこと。(事務局)

#### ⑤各部会より

##### ○計画部会より<資料6参照>

・資料6を基に第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の進捗状況について説明。

本日の保健福祉委員会が終わり次第、計画案を各委員に郵送予定。計画の内容については、協議会で検討した内容とあまり変わらないものとなっている。(事務局)

・今後各計画部会で計画の進捗状況をしっかりと確認していこうという話になった。計画の進捗状況を確認していく中で、次回の計画改定に活かしていきたい。年1回は集まり進捗管理をしていくことを確認している。また、その件について幹事会で集まった際に、具体的に何を行うのか決める必要があるという意見がでた。(下田委員)

##### ○働きかたサポート部会より

・12月6日に1回目を実施したばかり。内容としては、委員の自己紹介。部会設置までの流れの確認。部長(川口委員)・副部长(修理委員・島田委員)の選出。各機関の現状・課題を発表していただいた。主な課題としては、障害が重度化してなかなか就労に繋がらない。短時間就労(20時間未満)があれば、繋がりやすくなる。精神状態が安定しない方の対応方法をどうしていくかなどが挙げられた。

・委員が14名いるので、全体で意見交換がしづらい。そのため、2月9日に幹事会を実施して、2月22日の第2回目では、小グループに分けて現状課題について話し合いをする予定。(川口委員)

##### ○地域移行促進部会より<資料1・5参照>

・知的グループについては、昨年の10月から実施していない。資料1を確認してもらいたい。

・今後は、地域生活支援拠点を絡めながらすすめる。

・グループホームの土日帰宅の話については、事業所側にも事情もあるため、単にアンケートをとるのではなく、事情も把握しながら確認することとする。(鈴木委員)

・精神グループについては、相談支援事業所向けに地域相談支援に関するアンケートを実施した。結果はこれから分析し、次回の部会でどのように結果を活用するかを検討する。また、これまで手を付けられなかった八王子や青梅方面の精神科病院へのアプローチをしたいと考えている。具体的には実態把握も兼ねてアンケート調査を実施したいと考えている。本日本会です承いただければ、次回の部会で内容を検討し来年度早々に実施したい。

→アンケート実施について特段意見はなく、了承。

→入院している人が地域に帰って来るためにはどうしたらいいのか。地域生活支援拠点も含めて横断的な議論が必要ではないか。

##### ○相談支援部会より<資料7・8参照>

・資料7を基に、それぞれのグループ活動の進捗・次年度の方向性について報告。(下田委員)

- ・相談支援部会が大きくなったことで、他のグループの活動が見えない等の問題が生じている。部会の幹事会の機能を強化し、2か月に1回定期的に開催していく。その中では、各グループの進捗を確認したり、新たな課題の共有をしていきたい。また、相談支援体制のあり方の検討やそれに伴う勉強会などを実施していく予定。(下田委員)
- ・相談支援事業所向けアンケート結果の報告を受け、相談支援体制のあり方についての検討をしていく。内容については、資料8を参照。
  - アンケートの自由記述がかなりの記載があった。今後意見を整理して活かしていきたい。次回の本会1回目でみなさんに提示できればと考えている。
  - 来年度相談支援事業所が3か所増える。相談支援部会に入っただけ、グループ活動を通して、ネットワーク強化をしていきたい。

～10分休憩～

### <質問・意見>

#### ○計画部会について

- ・特になし。

#### ○働きかたサポート部会について

- ・フィーカフィーカのような会社(特例子会社)で働ける人が増えればいいと思う。(金子委員)
- ・就労アセスメントが高2から始まるが今後どのように影響していくか。先生も進路指導について連携を求めてきている。今後アセスメントが働き方により重要になってくると思う。(下田委員)
- ・精神障害の場合、続かない特性があり、季節によって波がある。そのあたりを会社に理解してもらい必要もある。また障害者枠の就労は、軽作業ばかりでモチベーションがあがらないなどの声があがっている。(能勢委員)
- ・知的・精神の部会はあるのに、なぜ身体はないのか。(田中委員)
  - 働きかたサポート部会では、当事者として身体障害・知的障害、発達障害の方に委員として参加していただいている。(事務局)
- ・アセスメントと働き続ける定着の部分がメインになると思われる。今後この二つにグループを分けて検討していく予定。(川口委員)

#### ○地域移行部会について

- ・地域移行プレ事業を八王子、青梅など郊外の病院にも実施していただいたい。(能勢委員)
- ・入院している人が地域に帰ってくるためには、どうしたらいいのか。住まいの問題だけでなく、地域生活支援拠点も含めて横断的な議論が必要ではないか。知的・精神グループ情報交換しながら進めていただいたい。(修理委員)
  - 横断的な検討もできるような委員の構成なども検討していきたい。(事務局)
  - 郊外の病院への対応もしていただいたい。(高山会長)

## ○相談支援部会について

- ・当事者からお願がいたいのは、相談の24時間体制を望む。深夜帯、休日、年末年始、不安になることが多い。電話相談だけでもやってもらえるとありがたい。相談の担当が、変わると影響が大きい。できるだけ、かわらないようにしてもらいたい。相談員が忙しくて、研修の時間がないと聞くが、もっと当事者と触れていただきたい。それが一番の研修だと思う。相談するときに、誰に相談したらいいか見ている。職員の方は常に見られている。当事者同士で情報交換をしている。ピアを相談支援にもっと使っていってもらいたい。(能勢委員)
- ・だれのための協議会なのか相談なのか考える必要がある。課題が細分化していくと、支援する側が主体となって、当事者は取り残されていく感がある。そこをどうやって、協議会を通し、当事者の声を反映させていけばいいのか課題として感じている。(永田委員)
- ・計画部会でよかったのは、当事者の声を何度も聴いてくれ、何度もフィードバックしてくれた。それが計画に反映された。そのような場があることが、継続しようとなった理由だと思う。当事者の声を今後どのように吸い上げていくか考えていきたいと思う。(永田委員)
- ・相談支援事業所によって、相談の質に差がある。全て画一的にするということではないが、質をそろえるために、まず特定にアンケートを実施した。今後は、当事者の意見も伺いながら、相談支援体制につなげていきたい。(修理委員)
- ・資料3 平成30年度以降の計画相談支援に向けての資料では、支援者側の視点しかない。部会の中に特定相談だけでなく、当事者もいれるなども必要かと思う。(田中委員)

## ⑥自立支援協議会今後の論点について<資料10・追加資料2・3参照>

- ・地域生活支援拠点等の整備について説明。(事務局)
- ・平成30年度に予算の裏付けである実行計画(平成31年度~)の改定がある。地域生活支援拠点の枠組みだけでも、早急に検討する必要がある。国がモデル事業を実施しており、東京都では八王子市と大田区で実施。杉並区では、面的整備で進めていく予定であり、2月15日に面的整備で実施している八王子市に幹事メンバーで視察にいった。視察内容については追加資料3の内容を報告す。(事務局)
- ・杉並区は面的整備方針でいくこと。協議会での場を活用して検討していくこと。予算に係ることについては、早急に方針をきめる必要があること。面的整備といっても、様々なパターンが考えられ、杉並区として、どこを強化していくのか、いつ頃示してくれるのか。協議会として、どのタイミングで意見を伝えられるのか。(高山会長)  
→予算については、従来の実行計画だと、7月頃に固める必要がある。  
→区の現状から考えると、支援力の強化。人材の確保、質の向上。体験の場の確保が重要と考えている。来年度の本会をGW前に実施して、部会であがつている課題を踏まえ、地域生活支援拠点での課題として示す予定。そこで意見をもらいたい。夏前に2回ほど、本会を実施して予算の部分を決めて、その後細かい部分を検討していければと考えている。(事務局)  
→今後の流れについて了解した。年度内にもう一度、幹事会を行う。事務局から、今後委員に意見を求めることになる。その前に何か確認しておきたいことや、今説明した内容について

質問あれば伺う。(高山会長)

- ・24時間365日対応が一番必要と考える。人手の問題、お金の問題はあるが。(鈴木委員)
- ・コーディネーター配置すると、どれくらいの予算をイメージをしているのか。人的な部分では、相当お金がかかると思われる。(下田委員)
- ・緊急ショートとして、すだちがあるが、実際はなかなか受け入れてくれない状況。また1泊のため次につながらない。カラフルホームも中々受け入れてくれない。区内で数が少ないため、緊急に準備してもらいたい。(田中澄子委員)
- すだちは、本人の緊急時対応ではなく、支援者側の緊急時での対応のためショートとなっている。緊急でくる状態が難しい障害者の受け入れには、人手と専門性が必要。そのような視点からも今後議論が必要かと思う。(下田委員)
- ・地域生活支援拠点事業については、具体的な質問項目を作成して、事前にご意見をいただき、それを基に議論をしていきたい。幹事会で質問項目を整理していく。(高山会長)
- ・前回の協議会で、週末に帰宅するグループホームがあるとの話から、実態把握をとのこどだが、何を目的に何を調査するのか、意図が伝わるようなにする必要があると幹事会で話された。今後、緊急時の受け入れ先の課題もあるため、次回の協議会までに、そこも踏まえて何かご意見をいただきたい。(高山会長)
- ・今回、議論しきれなかった部分について、質問項目として各委員に投げかけさせていただくので、ご協力をお願いしたい。(高山会長)
- ・部会が増え、課題も大きくなってきている分、皆さまにご意見をいただきたいことが多くなってきている。今後幹事会でも本会の運営方法など検討する必要があると考えている。(事務局)

#### <その他>

・今年度、虐待通報の件数が増えている。虐待と認定している件数も増えていて、特に施設での虐待案件が、現時点で3件となっている。背景としては、人手不足が挙げられ、教育する時間や気持ちの余裕がないと考えられる。虐待の判断とならない件数についても9件あり、それも不適切な対応として、区から指導している。この件についても、何かご意見等あれば事務局へ。メールでやり取りさせてもらう。

以上